

スーパーマーケットにおける電力使用抑制策について

平成23年5月18日（水）
日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
社団法人新日本スーパーマーケット協会
（平成23年6月27日一部修正）

1、はじめに

3月11日に発生した東日本大震災による甚大な被害により、東京・東北電力管内における必要な電力の供給量は、確保できない状況に陥りました。そのため不測の大規模停電を避けるべく、計画停電が実施され、産業界のみならず一般家庭においても大混乱を招きました。

このため、この夏には計画停電を実施させないための取り組みとして、供給の範囲内で経済活動などを収めることが求められています。

2、今夏の電力需給の見通し

（1）東京電力

供給力は、震災前の5,200万KWから震災直後に約3,100KWに低下、3月末には3,600万KWまで回復、夏までに当初は4,650万KW確保の予定とされていた。その後の4月15日東京電力発表では、7月が5,200万KW、8月が5,070万KWまで引き上げられたが、最終的には5,380万KWを確保の見通し。一方、この夏の需要は、最大ピーク約5,500万KWを想定。昨年の猛暑時を想定すると6,000万KWが必要となる。

（2）東北電力

供給力は、震災直後に900万KWまで低下、3月末には1,100万KWまで回復、夏までには1,150万KW確保の予定。最終的には1,370万KWを確保の見通し。一方、この夏の需要は、最大ピーク約1,300万～1,380万KWを想定。昨年の猛暑時を想定すると1,480万KWが必要となる。

3、政府の電力需給対策

<東京電力管内の使用制限期間>

① 7月1日から9月22日の、②平日（月～金）、③9：00～20：00

<東北電力管内の使用制限期間>

① 7月1日から9月9日の、②平日（月～金）、③9：00～20：00

<削減内容>東京電力、東北電力管内共通

- ・ 昨年の上記期間・時間帯における使用最大電力の値（1時間単位）の15%削減した値を使用電力の上限とする
- ・ これを達成するため、大口需要家、小口需要家、家庭に、同じ目標を掲げ、均一に15%削減に取り組む。

4、スーパーマーケットにおける節電対策

この夏の節電対策は、お客様の安全と食品の安全性を最優先に、日常の食生活を支えるという地域のライフラインの役割を果たすことが求められます。また対策は、お店ごとの機器の性能や建物の構造によっても変化してきますので、下記の内容はあくまでも目安としてください。

15%削減に向けた節電対策は、最終的には店舗ごとに検討する必要があります。

【事前準備】

従業員への節電の啓蒙と冷凍・冷蔵ケース、空調などのこまめな清掃が重要となります。

また、流通3団体が作成した節電ポスターもございますので、ご活用ください

- (1) 個店別に節電責任者を指名
- (2) 従業員への節電に向けた取り組みの周知徹底
 - ① 搬入口などからの外気の浸入を極力抑えるために出入り口のドアをこまめに閉める
 - ② 冷凍・冷蔵ケースのロードラインの順守
 - ③ 冷凍庫・冷蔵庫の在庫の削減
 - ④ 事務所、休憩所、従業員用トイレなどのこまめな消灯など
- (3) 事前清掃の実施
 - ① 冷凍・冷蔵ケースの吸い込み口および吹き出し口の清掃
 - ② 空調設備のフィルターなどの清掃
 - ③ 照明の清掃

※上記の取り組みは、ピーク時期にはこまめに実施することが望まれる

【節電の取り組み】

<照明の分野>

- ① 広告塔・看板照明の消灯
- ② 売り場、バックヤードの照明の削減および照度の見直し：50%削減が目安
- ③ 平台、壁面などの演出用照明の消灯
- ④ 塔屋灯・看板の消灯、駐車場照明の削減

<冷凍・冷蔵ケースの分野>

- ⑤ 冷凍・冷蔵ケース内の一部照明の消灯：50%削減が目安
- ⑥ 冷凍・冷蔵ケースの一部稼働停止と可能な範囲でのケースの温度設定の変更
(例) 野菜、常温販売が可能なペットボトル・缶・ビンの飲料およびお酒売り場の冷ケース
→10℃設定に変更など

※なお、牛乳やその他のチルド飲料などの販売にあたっては、商品自体の温度が、食品衛生法などに定められている温度になるよう、ご注意ください

冷凍食品売り場の一部封鎖：週末のみ封鎖部分の商品を販売など

- ⑦ 冷ケース吹き出し口・吸い込み口などのこまめな清掃

<空調の分野>

- ⑧ 空調の温度設定の見直し：事務所、バックヤードは28℃、売り場は26℃設定が目安
※冷蔵ケース設備とのバランスを考慮する必要あり。設定温度を上げすぎると冷ケースが更に稼働して電力を消費してしまう
- ⑨ 空調フィルターのこまめな清掃
- ⑩ 省エネ機器への可能な範囲での入れ替え

☆ 15%削減に向けた取り組みの目安

上記取り組みを実施した場合の目安	夏の電力使用量構成比（目安）	ガイドライン	削減目安
照 明	15%	50%削減	5%～7%
空 調	15%	28℃設定 または 一部空調停止	1%～2%
冷ケース	55%	一部稼働停止 または 温度設定の調整 ケース内照明の 一部消灯	7%～10%
厨 房	10%	節電	
そ の 他	5%	節電	
合 計	100%		15%以上削減